

中野市の市名変更に関する 調査報告

「信州中野市」への名称変更について、これまでの調査結果をふまえ、市長の方針をお知らせします。

問 政策情報課 ☎(22)2111 (内線401)

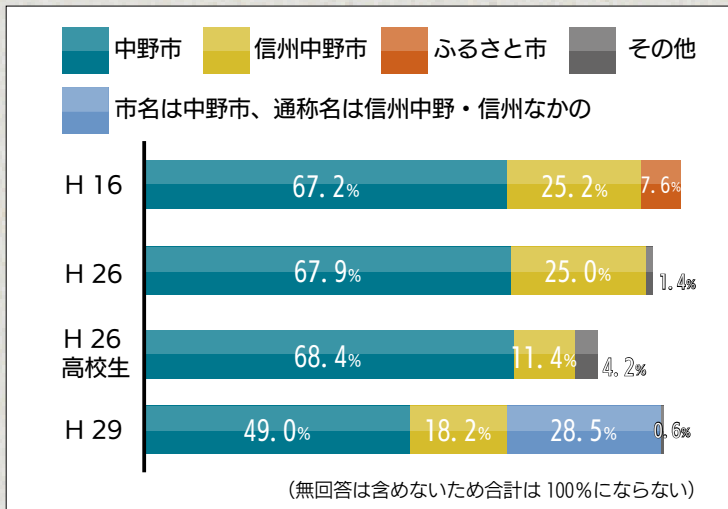


市民アンケート結果

平成16年、26年、29年と3回にわたってアンケート調査を実施しました。

市では、これまでに市の名称について「市民アンケートによる意識調査」、市民参加による「シンポジウム」、将来のまちづくりを担う高校生の「グループインタビュー」、市内在住の30代の若者による「意見交換会」を実施し、皆さんからのご意見をお聞きしました。

これらの調査結果を踏まえ、現下の情勢や市民負担などさまざまな観点から総合的に判断した結果、「市の名称は変更しない」こととしました。



平成26年に実施した、高校生を対象とした調査では「信州中野市」が全体の約1割と、年代別に見た意識差でも若年層が市名変更を望んでいない傾向にあります。

平成29年調査では通称名(愛称)を含めると約8割が現状の「中野市」のままを望んでいます。

シンポジウム

平成30年3月27日、監修に立正大学文学部 浅岡隆裕准教授を迎え、市内・市外に居住されているパネリスト3名により、さまざまな視点から市の魅力度、知名度の向上につながるPR方法・ブランド活用、「中野市の市名・通称名」について、ご意見をお聞きしました。

パネリストの意見

・なぜ、信州をつけないのか。中野

経済波及効果



市名変更後における推計消費純増額「16億1,700万円」、第一次間接効果として「1億3,500万円」、第二次間接効果として「2,000万円」。合計「17億7,200万円」が市名変更後の経済効果として見込まれる。(就業者誘発数は120人)

※あくまでも一定の条件下における推計値です。
 経済波及効果が起こるまでの所要時間は明確になっていません。

市名変更と合わせて展開するシティプロモーションや観光施策、さらに情報発信を強力に仕掛けるなど、より中長期的な視点でのまちづくりを講じる必要があります。市名変更だけで経済波及効果が起こるものではありません。

また、消費純増額に対して、間接効果が少ないのは、本市の産業構造から地域経済に与える影響が限定的であることを示しています。

たとえば東京の中野であり太刀打ちできない。
 県外への売り込みには、信州中野なら分り易く、PRしやすい。
 県内の他市町村で「信州」を使用されると二番煎じとなってしまう。
 信州中野という通称名があるのでまずは、その地域ブランドを育てていくこと。

▼監修者による整理

・市名変更が知名度向上につながるかは、不明確。市名変更するにしてもしないにしても、地域の魅力を発信していく必要がある。

高校生グループ

インタビュー

30代若者意見交換会

①中野市に対する認識

【結果】中野市の住みやすさは満足。不満はさほど顕在化していない。

【考察】高校生、30代ともに、中野市の住みやすさは評価されており、住み慣れた土地への愛着度は示されている。しかし主に観光の目玉や

娯楽施設など地域資源の乏しさから「中野市を自慢する」といった積極的な捉え方がされておらず、市民としての誇りやプライドを持つに至っていない。

「中野市」という市名そのものにマイナスイメージは持たれていない。知名度の低さゆえに市外の人に対し市の紹介をすることや東京都中野区と混同される煩わしさ、不便さはある程度感じてはいるものの、さほどストレスにはなっていない。長く使い続けているために慣れや親しみがある。

②市名変更の議論があることの認知

【結果】30代若者意見交換会の参加者が、市名変更についての議論があることを知らなかった。

【考察】市名変更に向けての議論があることが共有されておらず、議論が進んでいない状況が認められる。「中野市」を長く使い続けているために慣れや親しみが有り、市名変更の議論がなされていることを聞くまでは、それを変更したほうがよいといった感覚は生じないと思われる。

③「信州」を付けることの意味

【結果】地域のまとまり呼称として、「信州」よりも「長野県」の方に共感。信州という広域的な名称を、中野市が独占的に名付け使用することに對し引け目や申し訳ないという感覚がある。

【考察】若者世代では「信州」よりも「長野県」というくくりの方が定着。身近な存在として親しみをもって捉えられている。

④市名変更することの効果についての認識

【結果】中野市の魅力そのものがアップしなければ、市名変更によって中野市の知名度向上や来訪促進などにつながらないとの見方が示された。
 【考察】市名変更だけでは市外の中野市に対する興味喚起にはつながらないということが認識されている。

⑤市名変更に伴い発生する負担感

【結果】「市名変更」に多額の税金を使っているのか」という意見が強く出された。市名変更に伴う市の経費、1億2千万円というコストは、それに見合うリターンが得られないのではという見方がされている。

【考察】市名を変えただけで効果が得られるのか、といった懐疑的な見方が強いために、こうした税金の無駄遣いといった批判が出やすいと思われる。

通称名としての「信州中野」を展開することは、若者では一定の支持を集めている。わざわざ費用をかけて市名を変更せずとも、「信州中野ブランド」の打ち出しを強化することでよいとも考えられている。

市名を信州中野市へ変更する メリット・デメリット

市民の視点

- ・信州は全国で広く通じる
 (中野市で通じないことも多いが、信州中野市は長野県にある市と伝わる)
- ・東京都中野区と区別しやすくなる
 (中野市と中野区がまぎらわしいとの声がある)
- ・中野市に愛着を感じている
- ・長い市名は書くのに面倒、負担感がある
- ・住所変更など手続きが必要となり経費や労力がかかる

事業者の視点

- ・特産物を信州中野産で今後も積極的に販売することができる
 (産地表記、駅名、インターチェンジ名、市名の表記が統一され、物産を効果的にPRすることができる)
- ・長野県にある市と知られ、興味関心を持ち、訪れる人の増加が見込まれる
- ・住所変更などの手続きが必要となり、経費や労力がかかる
- ・特産物販売ではない事業者は負担に感じる

行政の視点

- ・地理的にイメージされやすい
- ・信州なかのブランドの知名度が向上する可能性がある
 (信州中野を多くの人に知られるPR効果が期待できる)
- ・約1億2千万円の経費がかかる
 (施設銘板、道路標識、コンピュータシステム、公印、公用車等表示、戸籍・住民基本台帳、校旗、その他)
- ・新市名の定着に時間と労力がかかる